

* 研究授業からの学び *

2021.12.13
No.6
文責 新玉

令和3年 11月11日 (木)

西土佐小学校 第3学年 総合的な学習の時間 岩村 悠雅 教諭

単元名 「みりょくいっぱい！西土佐小応援隊！」(全45時間)

小単元1 「守ろう！自分たちの西土佐小学校！」(22時間)

<単元でつきたい力>

- 西土佐の自然は、環境問題と保全に関わる人々の工夫や努力によって支えられており、自然と自分たちの生活がつながっていることを理解する。【知識及び技能】
- 動物と人間の関わり方の中から問いを見出し、その解決に向けて話し合ったり、調べて得た情報を基に考えたりする。【思考力、判断力、表現力等】
- 自分にできることに気付き、他者の考えを受け入れながら、課題解決に向けて取り組もうとする。【学びに向かう力、人間性等】

本時の目標

森林ふれあいセンターの方から得た情報、意見や自分たちが実行した解決策の結果を基に、自分たちにできることを考えることができる。

本時の評価規準

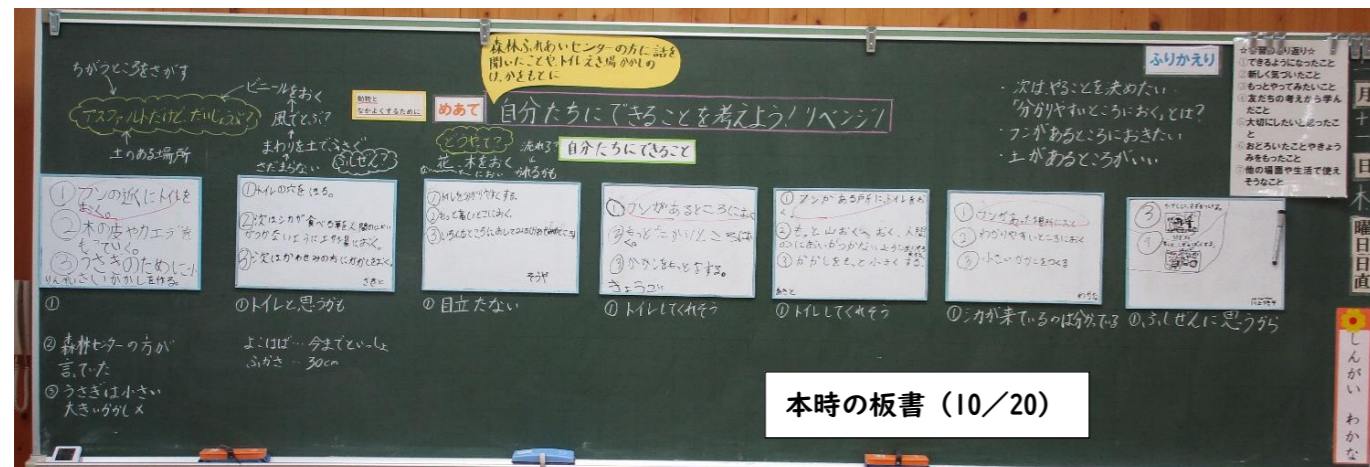
情報や意見、これまでの解決策の結果を整理・分析し、自分たちにできることを考えてまとめている。【思】

本時の授業風景

えさを食べてなかったよ。トイレにフンもなかった。どうしてだろう。どうしたらいいかな。



フンがあるところにトイレを置いてみたらどうか。カカシを小さくしたり増やしてみたらどうか。



本時の板書 (10/20)

研究協議より (抜粋)

授業者より

- 調べて得た情報を基にどう解決するのかを、一人一人に考えさせるため個人で活動させた。伝え合うことで、それぞれの意見を共有することができた。
- 「トイレ」「えさ場」「かかし」すべての解決策について話し合いたかったが、子どもの気付きを大切にするため、本時は「トイレ」についてのみ共有した。
- 子どもたちは、自分の考えや友達の発表を聞いて、意見や感想をよく言えていた。
- それぞれの解決策について共有する時間を短くし、すべての項目を共有をしたほうがよかったのか。

参観者より

- 個人思考の時間を大切に、自分たちで考え、意欲的に活動していた。
- 子どもたちが、地域特有の課題について課題意識をもって取り組んでいた。
- 地域の人から聞いたことをよく理解し、動物の特性をよく分かっており、自分事として考えていた。
- 子どもと教師の対話が多く、グループでの話をもう少し充実させる。言いたい雰囲気があったが、タイミングを逃がし、意見が出せなかった場面があった。
- 教師が支援にまわり、子ども同士の対話の時間を増やす。
- 問い返しから、子どもの言葉でつなげていく。
- タイムマネジメント

指導主事より

- ・一人一人がよく考えていた。これから、友達の意見についてどう思うのかを子ども同士で自由に話し合わせるといい。
- ・今までを振り返ってもっとこうしたいという気持ちを高める。
- ・失敗したことを続行する方法もあるが、別の方法を考えさせてはどうか。
- ・子どもたちが課題意識を持って活動に取り組めるよう、単元の導入を工夫することが大事。
- ・問いをもたせて、自分たちで考え、解決していく力をつけたい。
- ・内容や発信する方法を教えるのではなく、「生きる力」を育てることが大事。

授業者のリフレクションより

今回の授業では、森林ふれあいセンターの方から聞いた話や、自分たちが考えた解決策を実行した結果から、自分たちができることは何かを考えた。子ども同士が対話し、考えを広げたり深めたりできるようにすることが目標だったが、教師対子どもの授業となってしまった。子どもの意見やつぶやきをつなげていきたい。また、教師が代弁しすぎていたので、切り返して、対話を広げていくように、これから改善していきたい。

成果としては、子ども一人一人の考えを大切にされたため、個人思考から全体で共有した結果、自分の考えを全員が友達に伝えることができた。

☆これから取り組んでいきたいこと

- * 困り感からワクワク感をもたせる単元導入
- * 観点をしぼり、思考や対話の時間を確保
- * 問い返しから、児童の思考をつないでいく
- * 振り返りを活かし、次の活動に意欲を持って取り組めるような授業づくり